平成２７年　２月

各　　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート　平成 27 年 2 月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、ご周知のとおり、平成 27 年 4 月から八戸ＬＮＧターミナル(JX 日鉱日石エルエヌジー・サービス)が稼働します。

それに先立ち、八戸の経済を支える様々な工場をよりクリエイティブな視点から見つめ直すコミュニティ「八戸工場大学」で、先月 8 日～12 日に『アートプロジェクト「-162℃の炎を見よう」』が開催されました。液化天然ガスは-162℃で気化しますが、その過程で発生するフレアスタックはターミナルを美しく照らし出します。

3 月の試運転中までは見られるようですので、八戸を訪れたときには、是非ご覧になってはいかがでしょうか。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5 階

電話　(03) 3261-8973　／FAX　(03) 3239-6723

E-mail:　tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 2月号

平成27年1月の八戸市内での出来事や、
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項　目
1	八戸市　求人情報専用サイト「はちのへジョブ市場」開設
2	八戸市　新規事業でスケート人口拡大へ
3	八戸市「こども支援センター」開設へ　　子どもの成長を一体的に支援

【産業】

No.	項　目
4	ワイン用のブドウ栽培　産地化長期戦
5	八戸ＬＮＧターミナルに大型輸送船到着　総合試運転スタート
6	木質バイオマス発電所計画　県、八戸市と立地協定

【地域】

No.	項　目
7	沼館地区に新たな親水緑地誕生へ
8	多賀地区多目的運動場　２０１６年度の供用開始に向け造成工事本格化
9	「第６回さかな検定」　昨年に続き八戸でも開催
10	「花小路」　再開発計画で３０年ぶりに“開通”へ
11	八戸署管内　交通事故死傷者発生１０００人超え　３年連続県内ワースト
12	Ｂｕｙはちのへ運動　商品や名刺にキャラ活用
13	道の駅なんごうの「そば餃子」　ひそかな人気
14	新井田川　サケ稚魚の放流開始
15	伝説の騎手 前田長吉さん（八戸出身）の遺品　東京競馬場内で展示へ

【文化・スポーツ】

No.	項　目
16	「八戸ブイヤベースフェスタ２０１５」開幕　　～八戸の魚介類を満喫して～
17	八戸出身の笹ノ山　十両昇進へ闘志を燃やす
18	第６回ご当地どんぶり選手権　「八戸銀サバトロづけ丼」が準グランプリ
19	八戸学院光星　２年連続８度目のセンバツ出場へ
20	技能五輪全国大会 建築大工部門　八戸市出身の鈴木洸さんが２年連続の銀賞
21	八戸のゴルフ場　少雪で１月も通常営業

【県内】

No.	項　目
22	青森県の人口　４年間で５万人減少
23	急性心筋梗塞の再発予防へ　医療連携パス「ハート手帳」導入
24	県内倒産件数　６６件で６年ぶりに増加
25	「大間の鮪漁師」　今年も児童養護施設に寄付

【 行 政 】

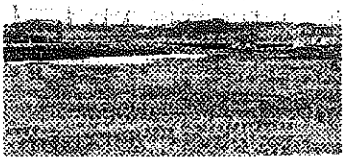
No.	レポート
1	**八戸市　求人情報専用サイト「はちのへジョブ市場」開設** 八戸市は1月6日、一般向けの求人情報無料ウェブサイト「はちのへジョブ市場」を開設した。これまでは、市のホームページで類似サービスを提供していたが、専用サイトとすることで内容の充実を図り、利用しやすくした。専用サイトには市内の281社が登録。求職者は求人メールの配信を受けられ、企業側も求職者の情報を閲覧できる。従来は、市職員が間に入り、調整に当たっていたが、情報のやりとりがスムーズになり、マッチング機能が強化された。
2	**八戸市　新規事業でスケート人口拡大へ** 八戸市は、市立施設として建設を進める屋内スケート場の完成を弾みに、国際大会などの招致による地域活性化、競技のさらなる振興につなげたいとして、新年度からスケートの競技人口拡大に向けた事業に継続的に取り組む。小林眞市長は、具体的な内容や予算規模に関しては、新年度予算を編成する中で検討するとしているが、「せっかく国際大会が開催できるスケート場ができるので、八戸市出身の選手が出場する夢を抱いている。そのためには選手の育成が重要だ」と強調、「教育委員会と連携し、新規事業を立ち上げる」と意欲を示している。
3	**八戸市「こども支援センター」開設へ　　子どもの成長を一体的に支援** 八戸市は4月、諏訪1丁目の市総合教育センター内に、「こども支援センター」を開設する。市内の未就学児と小中学生、その保護者を対象に、障がいの早期発見や心身の発達に関する相談、療育や検査、特別支援教育に関する環境整備、就学指導などに当たる。これまでも総合教育センターや市教委学校教育課で実施してきたが、「センター」の看板を掲げて窓口を一元化することで、市民へのさらなる周知を図る。将来的には田向地区に整備を目指す（仮称）市総合保健センターに併設する方針である。

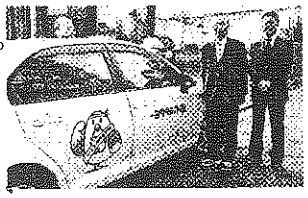
【 産 業 】

No.	レポート
4	**ワイン用のブドウ栽培　産地化長期戦** 市は南郷区の農業経営を支えていた葉タバコの生産縮減を受け、代替作物としてワイン用のブドウ栽培を進めている。生産者7人が10品種、約950本の苗木を植える計画で、昨年12月に植栽や支柱の組み立て作業が始まった。一方、専門家によると、ブドウの収穫まで3年、良いワインができるまで10年かかるとされ、産地化は"長期戦"の様相を呈する。生産者は「時間はかかるが、将来的に楽しみな取り組み。やりがいがある」と、新産業の創出による経済や文化の発展に期待を寄せる。
5	**八戸ＬＮＧターミナルに大型輸送船到着　総合試運転スタート** 八戸市豊洲のポートアイランドで建設が進む「八戸LNG（液化天然ガス）ターミナル」に、全長約280メートルの大型LNG船が1月8日に初めて到着した。LNG約6万トンを積んで入港したのは、マレーシア船籍の「プテリ・ムティアラ・サツ」。幅約40メートル、総トン数9万4400トンで、これまで八戸港に入港した船としては最大。到着を受け、ターミナルでは総合試運転が始まり、4月の本格操業開始に向けた最終段階に入った。

6	**木質バイオマス発電所計画　県、八戸市と立地協定** 河原木地区への木質バイオマス発電所の整備計画で、住友林業など3社でつくる八戸バイオマス発電は1月16日、市庁で青森県や市と立地協定を結んだ。木質バイオマス発電所の立地は県内2例目。会社は住友林業、住友大阪セメント、JR東日本の共同出資で設立。発電所の最大出力は1万2千キロワット、年間発電量は一般家庭1万7千世帯分に相当する。6月に着工し、2017年12月の操業開始を目指す。

【 地 域 】

No.	レポート
7	**沼館地区に新たな親水緑地誕生へ** 商業ゾーンが形成され市民に親しまれている八戸市沼館地区に、新たな親水空間が誕生する。2009年度から進めてきた緑地整備事業の一環で、「シンフォニープラザ沼館」に隣接する岸壁などを含む約2万9千平方メートルを、イベントを開ける空間を備えた親水緑地にする。総事業費は約8億1千万円。イベント広場やあずまや、水飲み場、ベンチ、駐車場などを設置する計画。野外ライブや朝市、フリーマーケットの利用なども想定しており、年間延べ約22万人の利用を見込んでいる。2016年度末の完成を目指す。
8	**多賀地区多目的運動場　２０１６年度の供用開始に向け造成工事本格化** 東日本大震災の津波で被災した市川町多賀地区で、市が整備する「(仮称)多賀地区多目的運動場」の建設が進んでいる。約10ヘクタールの敷地に建設される運動場には、約5600人が収容可能な球技場、人工芝の多目的グラウンド、鉄筋コンクリート造り4階建ての管理棟などが整備される。津波が発生した場合の避難スペースとなる管理棟4階は、100人の収容が可能となる。2016年度の供用開始に向け造成工事が本格化している。 
9	**「第６回さかな検定」　昨年に続き八戸でも開催** 日本さかな検定協会は6月28日、八戸市などを会場に「第6回日本さかな検定」を開く。検定は日本の魚食文化を振興し、魅力を広めるための趣味検定。2014年は全国で延べ約3千人が挑戦した。八戸市では2014年6月、北東北3県で初めて実施。全国最年少の6歳から75歳まで延べ122人が出願した。検定を誘致した市は「魚や魚食への関心が、より深まるきっかけとなれば」とチャレンジを呼び掛ける。
10	**「花小路」　再開発計画で３０年ぶりに“開通”へ** 中心街の八戸屋台村「みろく横丁」と交差する「花小路」が、約30年ぶりに“開通”する見通しが立った。花小路は三日町と六日町のほぼ中間に位置し、約200メートルにわたる私有地の路地。商業ビル建設が相次いだ1960年代後半に形成されたが、間がビルで仕切られていた。好立地にあるものの、段差や暗い場所があるなどとして地権者や商工会議所が整備を模索してきた。街路を分断していた旧レック・旧マルマツの再開発で、宙に浮いていた花小路の整備もにわかに現実味を帯びてきた。

11	**八戸署管内　交通事故死傷者発生１０００人超え　３年連続県内ワースト** 八戸署管内で昨年1年間に発生した、死傷者を伴う交通事故は1076件となり、青森県内18署の中で唯一、千件を超えて最多となった。同署の発生件数は2012年以降、3年連続で県内ワーストとなっている。八戸署管内では、交差点で信号待ちしている車に追突する前方不注意が目立つという。「八戸では昼夜で路面状況が変わりやすい条件が事故につながっている可能性がある」と県警の担当者は指摘する。
12	**Ｂｕｙはちのへ運動　商品や名刺にキャラ活用** 地域循環型経済の構築を目指す八戸商工会議所の「Buy(バイ)はちのへ運動」が、八戸市内の企業で広がりを見せている。「Buyはちのへ推進会議」を立ち上げてから5年が経過。賛同する会員企業は250社まで増え、商品や名刺にマスコットキャラクター「うみねこはっぴー」を活用する独自の動きも出ている。八戸タクシーは、はっぴーのマグネットシートを張り付けたタクシーを昨年12月から毎日1台運行している。また、よこまちでは、ネームプレートに使用するほか、はっぴーをデザインしたエコバッグ5千個を製作して買い物客に配布している。 
13	**道の駅なんごうの「そば餃子」　ひそかな人気** 南郷区にある道の駅なんごうの飲食店で、昨秋から販売を開始した手作りの「そば餃子」がひそかな人気を集めている。販売から約3カ月余だが、メニューに定着。“そばの里”として知られる南郷区の新たな魅力の一つになるか期待が高まっている。皮は南郷産のそば粉を使用し、郷土料理「かっけ」のような食感。中身は豚肉やニラ、キャベツなど国産の具材を使い、ニンニクみそで味付けしているのが特徴。一皿5個入りで税込み350円。
14	**新井田川　サケ稚魚の放流開始** 新井田川漁協が1月20日、昨年9月～1月に遡上したサケから採卵・ふ化した稚魚の放流を開始した。新井田川水系で捕獲するサケは生後4年目の個体が中心であり、約4年前の東日本大震災の影響が懸念されたが、採卵・ふ化は順調に進み、4月中旬までに平年並みの約1260万匹を放流できる見通しである。
15	**伝説の騎手 前田長吉さん（八戸出身）の遺品　東京競馬場内で展示へ** 戦後に旧ソ連のシベリア抑留中に非業の死を遂げた八戸市出身の騎手前田長吉さん(1923～46年)の遺品を、JRA競馬博物館(東京競馬場内)で、4月25日から6月下旬まで展示する方向となった。特別展「伝説の騎手・前田長吉の生涯」(仮称)として、初めて開催する。長吉さんは牝馬クリフジに騎乗し、1943年に「競馬の祭典」日本ダービーを史上最年少の20歳3カ月で制するなど、輝かしい戦績を残した。特別展では遺品や写真、年表などを展示し、天才騎手の歩みを紹介する。

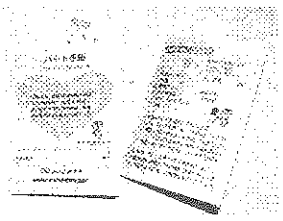
【 文化・スポーツ 】

No.	レポート
16	**「八戸ブイヤベースフェスタ２０１５」開幕　～八戸の魚介類を満喫して～** 八戸港に水揚げされた魚介類を使ったスープ料理を提供する「八戸ブイヤベースフェスタ2015」が2月1日から3月31日までの2カ月間、市内のレストランやホテルで開かれている。八戸ブイヤベースは、八戸港産の魚介類を4種類以上使って調理するルール。店によって使う具材や工夫が異なり、地魚のおいしさを実感できる一皿が提供される。4年目を迎え、いまや冬の八戸に欠かせない食の祭りになった。

17	**八戸出身の笹ノ山　十両昇進へ闘志を燃やす** 大相撲初場所で、八戸市出身の笹ノ山（本名：笹山喜悌（よしとも）、木瀬部屋）が新十両昇進に挑んでいる。笹ノ山が大相撲の門をたたいたのは東日本大震災の直後。新湊にある実家はマグロの卸売業を営み、津波で八戸港が甚大な被害に遭い、実家も影響を受ける状況だったが、両親は「気にせず頑張れ」と、プロ入りを応援してくれたという。同市出身の関取は1988年の清乃洋以来誕生しておらず、笹ノ山は「関取になって地元を元気づけたい」と闘志を燃やしている。
18	**第6回ご当地どんぶり選手権　「八戸銀サバトロづけ丼」が準グランプリ** ふるさと祭り東京2015（1月9～18日、東京ドーム）内で開催された「第6回全国ご当地どんぶり選手権」で、六日町の飲食店「サバの駅」が提供する「八戸銀サバトロづけ丼」が準グランプリに輝き、代表の沢上弘さんらが小林眞市長を訪ね、成果を報告した。今回は昨年を2割ほど上回る1万7千食を売り、全国の丼15品の中から来場者の投票で2位に選ばれた。1位は米沢牛ステーキ丼（山形県）。沢上さんは「来年こそは金を取りたい」と意気込みを語った。
19	**八戸学院光星　2年連続8度目のセンバツ出場へ** 第87回選抜高校野球大会の出場校選考委員会が1月23日に毎日新聞大阪本社で開かれ、八戸学院光星が選出された。光星は昨秋、青森県大会で優勝し、東北大会準決勝で仙台育英に2-7で敗れた。仙台育英が東北大会、明治神宮大会と優勝したため、東北のセンバツ出場枠が増え、選考委員会で仙台育英、大曲工（秋田）に次ぐ3校目に滑り込んだ。同校のセンバツ出場は2年連続8度目、春夏通算では3季連続15度目の甲子園となる。
20	**技能五輪全国大会 建築大工部門　八戸市出身の鈴木洸さんが2年連続の銀賞** 昨年12月に愛知県で開かれた「第52回技能五輪全国大会」の建築大工部門で、八戸市出身の鈴木洸さん（埼玉県在住）が2年連続の銀賞に輝いた。技能五輪は23歳以下が対象で、建築大工部門は11時間半の制限時間内にミニチュアの屋根を作り、製図や加工、組み立てなどの技術を競った。鈴木さんは「金賞を取りたかった」と悔しがりながらも、技術の向上に確かな手応えを感じていた。
21	**八戸のゴルフ場　少雪で1月も通常営業** 例年より雪が少ない八戸市で、河川敷ゴルフ場「八戸ゴルフ倶楽部」が3年ぶりに1月も営業を続けている。八戸の積雪は1月26日現在ゼロで、今冬の累積降雪量も53センチと平年の半分。同倶楽部では今月上旬、積雪で営業できない日もあったが、ほとんどの日で営業している。雪でコース状態が悪くなりがちな真冬の営業は県内では珍しく、ゴルフ場側、愛好者ともに歓迎している。

【 県 内 】

No.	レポート
22	**青森県の人口　4年間で5万人減少** 2014年10月1日現在の青森県の推計人口は約132万2千人で、2010年の国勢調査より約5万1千人減った。減少率が大きい自治体は、市部でつがる市の6.3%、町村では今別町の14.0%。このまま推移すれば25年後の2040年の青森県の人口は100万人を切り、昭和初期の水準になる、と推計される。県内自治体関係者は「仕事が少ないので若者が県外に転出する。若い女性も少ないので出生数も減っている」と実情の厳しさと見通しの暗さを説明する。

23	**急性心筋梗塞の再発予防へ　医療連携パス「ハート手帳」導入** 急性心筋梗塞を発症した患者が退院後、かかりつけ医など他の医療機関でも継続した治療を受けられる態勢づくりを目指し、青森県は1月1日から、患者の病状などを記した医療連携パス「ハート手帳」を本格導入した。ハート手帳の専門医用のページには治療した部位や症状、かかりつけ医用には患者の状況についてのチェックリストが設けられており、県内7病院の専門医と、各患者のかかりつけ医が手帳を通じて情報を共有する。再発防止へ向けた効率的な治療を行う上で、従来以上にスムーズな連携が期待される。 
24	**県内倒産件数　６６件で６年ぶりに増加** 2014年の県内企業の倒産状況は、負債額1千万円以上の倒産件数が66件（前年比13件増）で6年ぶりに増加した。負債総額は94億8500万円と前年を17億1400万円下回った。地域別では青森市の21件が最多。次いで八戸市13件、むつ市と弘前市が各6件、上北郡5件など。倒産は長期の景気低迷を背景にした政府の各種経済支援策で抑えられてきたが、4月の消費税増税後に目立ち始め、依然として厳しい県内企業の経営実態がうかがえる。
25	**「大間の鮪漁師」　今年も児童養護施設に寄付** 県内6カ所の児童養護施設すべてに、今年も「大間の鮪漁師」を名乗る人物から、現金計120万円の寄付があった。封筒を預かったと話す60代の女性が1月9日に鶴田町の幸樹園と青森市の藤聖母園を、10日にその他4施設を訪れた。封筒には、現金20万円と「漁で得た一部を子どもたちにおくります」「応援している人がいることを忘れないでください」などと子どもたちへのメッセージが書かれた手紙が入っていた。